

全国安全週間を契機に 茨城労働局長が 建設工事現場の安全パトロールを実施！

～死亡災害増加の建設業に、労働災害防止、熱中症予防を要請～

令和5年7月4日



パトロール前に安全訓話をする澤口労働局長

させるため、墜落・転落災害や熱中症の予防など重篤な災害が起こりやすい建設工事現場の安全パトロールを実施しました。

茨城労働局長の澤口局長をはじめ、水戸労働基準監督署の深津安全衛生課長など計6名は、株式会社安藤・間が茨城県茨城町で施工するR3霞ヶ浦導水石岡トンネル（第1工区）新設工事現場の安全パトロールにおいて、地上から立坑内への墜落・転落防止のための作業用階段へのネットの設置、エレベーターによる移動方法の徹底、トンネル内

茨城労働局（局長 澤口 浩司）は、全国安全週間の7月4日に、水戸労働基準監督署と合同による安全パトロールを実施しました。

令和4年の茨城県内における死亡者数は30人と前年比で9人増加し、特に建設業では、前年の7人を大幅に上回る12人の尊い命が失われています。また、令和5年6月末時点の死亡者数は既に10人となり、その内建設業では2人の死亡災害が発生していることから、この増加傾向に歯止めをかけ、労働災害を減少



本山所長(左)から熱中症予防の説明を受ける澤口労働局長(右)



トンネル内でパトロールを行う
澤口労働局長(左)

で資材を運ぶ運搬機と作業者の接触防止のための安全通路、暑さ指数を常に把握し、坑内換気冷却装置によるトンネル内の通風・換気等の熱中症予防対策、トンネル内の火災対策などの取組を確認しました。

澤口局長は、訓話の中で「建設工事現場では、作業内容が日々刻々と変化する。今後も作業開始前の安全点検や終業時の安全確認などを確実に実施し、労働災害を防止する対策の徹底に努めていただきたい。これから暑くなるので、水分・塩分を定期的に摂取して、熱中症の予防に十分注意していただきたい。」と呼び掛けました。